

3年間の測定結果報告会

「はかる・知る・まもる」

はかる、知る、守る。



5月8日(日) 11時～16時
西宮市勤労会館 第8会議室

資料代500円 阪神西宮駅東へ10分・JR西宮駅南7分

年間50ミリシーベルトを下回る地域に帰還を強要しようとする国や自治体は、放射能による汚染と健康被害を隠し、棄民政策を進めています。しかし、汚染は存在し、流通しています。被ばくによる健康被害は明らかであり、これからも広がっていくことが危惧されます。



3年間の実測結果から全国の土壌・食品・衣類等・肥料類・木材等建築資材の汚染実態を明らかにし、被ばくを避けるためにどんな選択が可能を考えます。

自治体が行っているピックアップ検査は検出下限値が高くほとんどが不検出として公開されています。しかし、現実には下限値以下で流通しているものはいくつもあります。また、事故前からの汚染により検出されるものもあります。市民測定所の「はかる・知る・まもる」役割はとても重要だと再認識しています。

また、化学肥料・農薬・遺伝子組み換えなどの食品公害もあり子どもたちの食の安全を確保するために有機無農薬栽培をはじめとする生産者の皆さんの存在は、大きな希望です。

プログラム

11時 ビデオ上映

真実はどこに - 汚染を巡って -

監督：ウラディミール・チェルトコフ

12時 昼休憩

13時 3年間の測定結果報告

阪神・市民放射能測定所

15時 交流会(発言予定)

有機無農薬栽培農家

避難移住の方々

16時 終了

企画内容

- 3年間の測定記録冊子等書籍販売
- 有機無農薬野菜販売(放射能測定済)
- お昼弁当販売(有機無農薬・測定済)
- 放射能無料測定(1リットル要)

ビデオ内容紹介

この映画は内部被曝に関する衝撃的な論争とベラルーシの犯罪的な現実の記録である。2001年、キエフにおけるWHOの後援によって開催された「チェルノブイリの健康への影響に関する国際会議」は、IAEA, UNSCARE, ICRPの代表者たちが顔を連ね、まさに独立系の科学者と現地の実情を知る医師達との激しい論争の舞台となった。これらの論争の真実はどこにあるのか? そして市民は何をすべきなのか、そのことが映画を観るすべての観衆に問われている。(コリン・コバヤシ Echo—Echanges France)

阪神・市民放射能測定所 (〒662-0916 西宮市戸田町5-21 つむぎの家内)

TEL/FAX: 0798-34-2315 090-3828-9579(安東) mail: shs.hanshin@gmail.com ブログ: http://hanshinshs.blog.fc2.com